

カービュー マーケットウォッチ (2009年11月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体では3カ月連続で前年を上回る！

09年10月順位	09年9月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	26,918
2	(2)	→	フィット	ホンダ	15,444
3	(3)	→	ヴェッツ	トヨタ	12,416
4	(4)	→	パッソ	トヨタ	10,575
5	(6)	↑	フリード	ホンダ	9,147
6	(12)	↑	ヴォクシー	トヨタ	7,961
7	(15)	↑	カローラ	トヨタ	7,799
8	(8)	→	セレナ	日産	7,397
9	(5)	↓	インサイト	ホンダ	7,047
10	(7)	↓	ノート	日産	5,608
11	(10)	↓	ウィッシュ	トヨタ	5,559
12	(16)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,389
13	(17)	↑	ノア	トヨタ	5,219
14	(11)	↓	ティーダ	日産	4,998
15	(14)	↓	エスティマ	トヨタ	4,456
16	(25)	↑	ステップワゴン	ホンダ	4,259
17	(13)	↓	デミオ	マツダ	4,229
18	(9)	↓	キューブ	日産	4,039
19	(20)	↑	スイフト	スズキ	3,555
20	(23)	↑	ラクティス	トヨタ	3,394

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体では3カ月連続で前年を上回る！ しかし軽乗用車と輸入車は2ケタ減で明暗を分ける

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した10月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車全体では33万9567台で、前年同月比107.8%と3カ月連続で前年を上回った。3ナンバーの普通乗用車、5ナンバーの小型乗用車とも前年同月比は123.4%、115.5%と2ケタの伸びとなったが、軽乗用車は87.8%と2ケタの大幅減となり、これで11カ月連続のマイナス。輸入車も日本メーカー製を含めた全体で79.7%、海外メーカー製のみでも86.1%と振るわず、18カ月連続で前年割れ状態が続いている。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は23万246台で、前年同月比121.7%（日産デュアリス輸入分含む）と4カ月連続のプラス。月間ランキングでは、「トヨタ プリウス」、「ホンダ フィット」、「トヨタ ヴィッツ」のトップ3は5カ月連続で変動はないが、トップ30に入った30車種中、前年同月比がマイナスなのは、「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」62.7%、「トヨタ ヴェルファイア」87.1%、「トヨタ エスティマ」97.5%、「スズキ スイフト」89.4%、「トヨタ ラクティス」79.6%、「トヨタ クラウン（マジェスタ、ロイヤル／アスリート、ハイブリッド、セダン、コンフォートの合計）」78.3%、「トヨタ アルファード」81.3%の7車種だけと全体に好調だ。しかし、売れているのはハイブリッドカーとコンパクトカー、5ナンバークラスのミニバンなど、エコカー減税や新車補助金制度の適合モデルを数多くラインナップする車種が中心。その意味で来年度以降の反動が不安視される。

また3カ月連続で下落率が1ケタ台に落ち着いていた軽乗用車は、好調だったダイハツや日産が前年同月比86.5%、74.5%と落ち込み、全体でも9万8606台で87.8%と2ケタのマイナス。輸入車は海外メーカー製が1万214台で、前年同月比86.1%。スズキ スプラッシュなどの日本メーカー製を含めても、1万716台で、79.7%と低調に終わった。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が13カ月連続トップで、BMW（ミニ除く）が2位、メルセデス・ベンツは3位に後退。4位アウディが前年同月比107.4%と5カ月連続で前年を上回ったほか、6位ボルボは前年同月比104.2%、7位プジョーも123.1%とプラスだったが、トップ3は前年同月比77.0%、91.8%、89.7%とそれぞれ低迷している。

■ココも気になる！その1 中間決算に見る各社の国内販売台数予想

11月に乗用車メーカー8社の中間業績（09年4～9月）と今年度通期の業績予想が発表された。上半期の世界市場における販売台数ではスズキを除き、前年同期比2ケタ減だったが、それでも営業利益は全社とも4～6月の第1四半期に比べ、7～9月の第2四半期はプラスに転じ、各国の景気刺激策による販売増と、固定費・経費削減や投資の見直しによる相乗効果が出始めている。しかし例えばアメリカでは、景気刺激策の終了で再びクルマ販売が減少するな

ど、先行きは依然として不透明。スズキがインド市場で、日産が中国市場でそれぞれ過去最高の販売台数を記録し、日欧米の落ち込みをカバーしているだけに、各社とも新興国市場へのテコ入れに拍車がかかりそうだ。

国内市場では上半期は全社とも前年割れだったが、通期予想では上方修正するメーカーが続出。トヨタ 135 万台→155 万台、ホンダ 57.2 万台→68.5 万台、マツダ 20 万台→21.8 万台、ダイハツ 59.5 万台→59.7 万台、スバル 16 万台→16.6 万台に期初より上方修正された。特にトヨタは「プリウス」が好調なのをはじめ、10 月にモデルチェンジした「マーク X」、12 月発売の「SAI」といったニューモデルの拡販に力を入れていくという。

とはいえ、国内の回復基調を後押ししているのはエコカー減税と新車購入補助金であることは間違いのないところ。10 月末時点で補助金申請受付台数は約 106 万台と予算の 4 割を消化するペース。また 9 月は乗用車販売の約 65.0%がエコカー減税対象車といわれ、販売の現場ではエコカー減税 75%クラスじゃないと勝負にならない、という声も聞かれる。つまり今の好調さはエコカー減税と新車購入補助金制度が続く今年度末（取得税、重量税のエコカー減税は 3 年間）までの期間限定というわけだ。この勢いがあるうちに、魅力的なニューモデルが数多く現れるといいのだが。

■ココも気になる！その 2

ラインナップ強化で苦境脱出を図る BMW

昨年、日本での販売台数が年間 3 万 5945 台で、前年比 76.3%と 2 年連続で前年を下回った BMW。今年も 1～10 月累計で 2 万 2723 台、前年同期比 73.8%と苦戦が続いている。これは世界的な金融危機による消費後退の影響で、日本ばかりでなく世界市場でも同様。データは 1～9 月のものだが、BMW ブランドのみでは 77 万 7455 台で、前年同期比 83.8%となっている。

ただ 7～9 月四半期の税引き前利益を見ると、効率性の向上とコスト軽減により、前四半期（4～6 月）から連続で黒字を達成。ミニ、ロールスロイス、モーターサイクルを含めた BMW グループ全体で通年での黒字化にめどが立ったとしている。もちろん拡販施策にも手抜きはなく、年内にも「BMW X1」や「5 シリーズ・グランツーリスモ」、「ニュー 5 シリーズ」を投入予定。これで世界市場における年間販売台数は前年比 10～15%程度の減少にとどまるものと予測している。

こうしたラインナップ強化は日本でも積極的で、7 月に受注を開始した「X5M」と「X6M」を皮切りに、10 月には主力モデルの「3 シリーズ（セダン／ツーリング）」と「Z4」に、お手頃価格のスタイルエッセンスを設定。「320i セダン・スタイルエッセンス」では iDrive＋ナビやバイキセノンヘッドライトなどの装備を省きながらも、従来モデルから 46 万円も安い 399 万円という魅力的な価格を実現。さらに「メルセデス・ベンツ S ハイブリッドロング」に続く輸入車のハイブリッドカーとして、「アクティブハイブリッド 7」の受注を開始。納車は来年初夏の予定だが、話題性は十分だ。エントリーモデルからハイパフォーマンスエコモデルまで、ラインナップの充実を推し進める BMW の今後に要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
